

## 温州ミカンの品質に関する研究

(第17報) 産地における品質変動の要因について

栗山隆明・白石真一・吉田 守

(福岡県立園芸試験場)

KURIYAMA, T., SHIRAISHI, S., and YOSHIDA, M.

Studies on the Quality of Satsuma Mandarin

(17) On the Factors of Variation of the Fruit Quality  
in the Satsuma Mandarin Producing Districts

温州ミカンの品質に因与する要因は数多くあるが、それぞれの産地の立地環境や栽培条件によって、影響の程度は異なるものである。今回は本県温州ミカン産地の中で、海岸線から20数キロメートルも離れた、園地の標高差や樹令差の大きい山間内陸地において、均質出荷を実施するための資料として、品質に対する諸要因の寄与度について調査を行ったので、その結果について報告する。

## 1. 調査方法

本調査は1972年に実施したもので、その年の気象条件はほぼ平年に近い年であった。調査産地は福岡県八女郡黒木町で、栽培面積は約800ヘクタール、その中の289点について任意に園地を選定し、果汁の糖度計示度とクエン酸含量について、日園連式自動分析装置を利用し、果実はM級に大きさを統一して、9月23日から25日までの3日間、早生温州についてのみ調査を実施した。

## 2. 結果および考察

糖度計示度に対する寄与度は、地域が最も大きく、次

いで方位、土壌表面管理、せん定の程度、樹令、標高、母岩、地形、樹冠占有率の順となり、排水の良否と土性の寄与度は、他の要因に比べると小さかった。なお、地域の寄与度が特に大きいのは、他の要因まで包含して、実際の各要因の寄与度よりも大きな値として算出されたものと考えられる。

クエン酸含量に対する寄与度は、母岩、樹令、標高、傾斜度、樹冠占有率、排水、方位、せん定の程度の順となり、土壌管理、地形、土性などの要因の寄与度は小さかった。

全体的にみると、糖度計示度よりもクエン酸含量に対する寄与度の方が、寄与度そのものも小さいが、各要因間の差も小さかった。

以上のことから、黒木町において区分出荷を実施する場合には、せん定の程度や土壌管理技術については平準化するとして、方位、樹令、標高、母岩、傾斜度、地形などによる集荷区分を考えることが必要と考えられる。

第1表 果汁成分に対する各種要因の寄与度(1972.5.黒木町、早生温州)

要因		傾斜度	地形	母岩	土性	土壌管理	排水	標高	方位	樹令	地域
糖度計示度	寄与度	0.1805	0.1337	0.2561	0.0263	0.3541	0.1311	0.2432	0.3879	0.2543	0.5495
	偏相関 重相関	0.1644	0.0763	0.0781	0.0337	0.2084	0.0275	0.1623	0.3068	0.2005	0.4425
		0.5824									
クエン酸	寄与度	0.0863	0.0268	0.1483	0.0243	0.0580	0.0211	0.0897	0.0546	0.1108	0.2661
	偏相関 重相関	0.1674	0.0489	0.1984	0.0930	0.0826	0.0371	0.1766	0.1266	0.1847	0.5227
		0.6635									